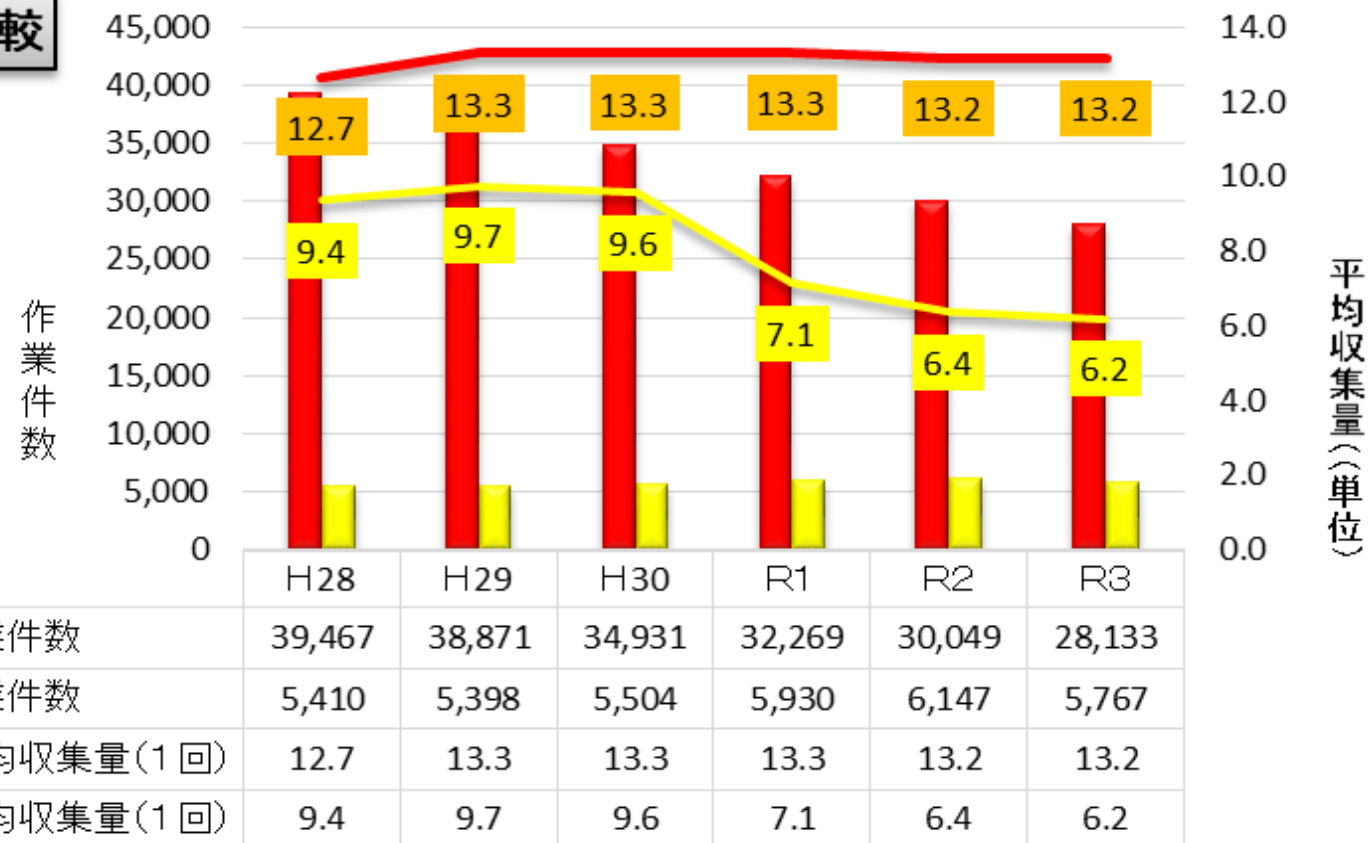


仮設トイレ収集状況

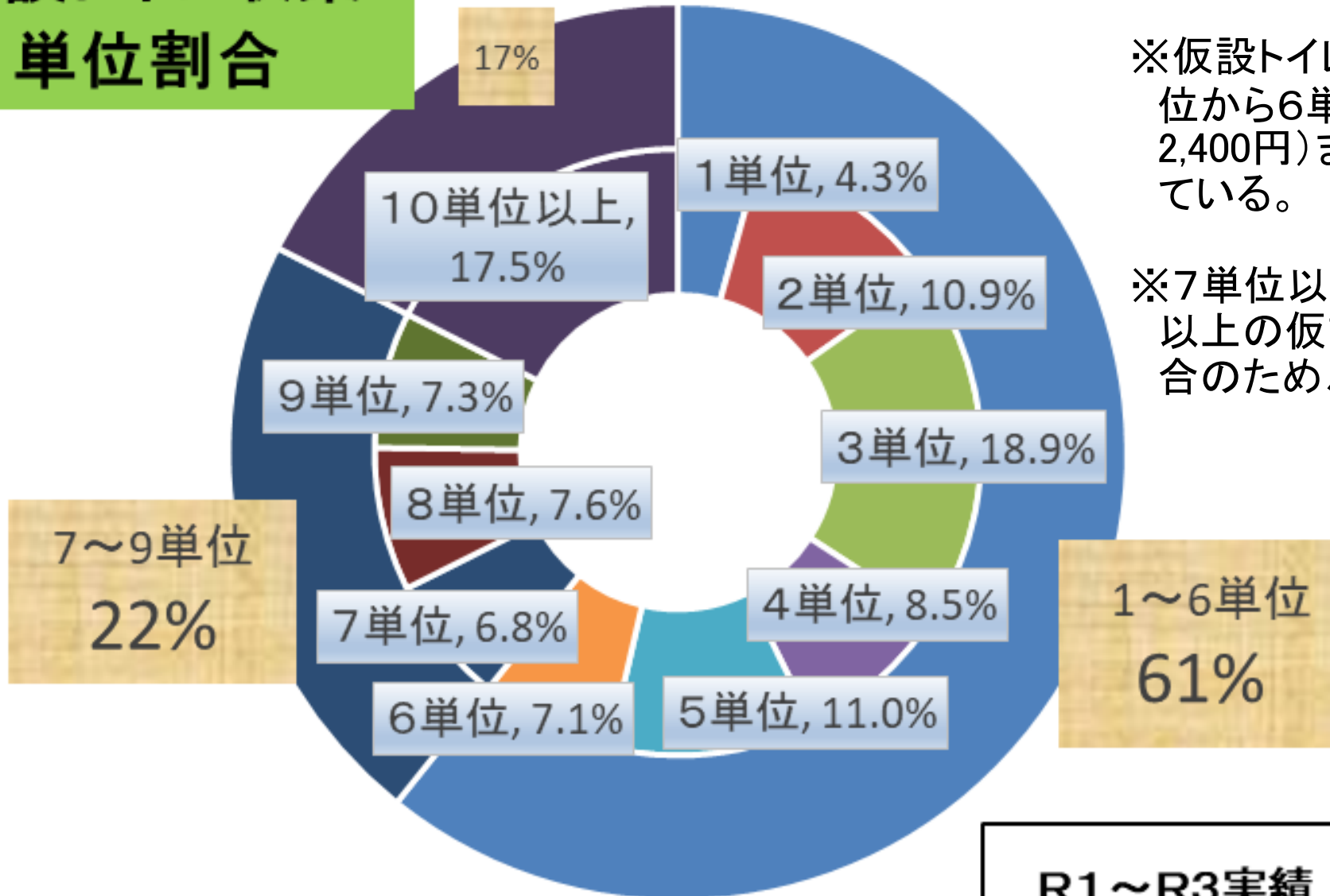
件数・収集量 比較

※従量制と仮設トイレは共に、料金計算が「収集量×単価(単位)」で計算しているため比較対象とした。



★従量制による作業件数は年々減少し、H28と比べ△28.7%減少しているが、平均的に収集量(単位)は13単位と安定している。一方、仮設トイレの収集件数は6.6%の増加傾向にあるが、平均収集量は減少している。また仮設トイレの作業割合も13.7%から20.5%に上昇。このことから、仮設トイレは収集効率が悪く、従量制の収集作業に比べ事業者の負担が増している。

仮設トイレ収集 単位割合



※仮設トイレの収集においては、1単位から6単位（現行料金412円～2,400円）までが大半の61%を占めている。

※7単位以降については、1回に2基以上の仮設トイレの収集がある場合のため、収集量は多くなる。

R1～R3実績

仮設トイレ収集運搬の現状

（通常世帯等の場合）

家庭、事業所等の常設のくみ取りトイレは収集日程やルート設定が可能であり効率的（計画的）に 複数箇所を収集運搬。

（仮設トイレの場合）

建設関連事業者が大半を占め、急な依頼が多く、収集運搬は時間的、距離的また収集量から見ても非常に効率が悪い上に、他の収集と一緒にできず、少量での収集となることが発生している。

設置場所の把握や確認が困難。 収集物の量や場所までの長短に関わらず行くが、実際遠い上に少量のことが多い。 設置場所により作業がしづらい。 他の建設業者と日程が重なり作業ができない。 仮設トイレのタイプにより、便槽が奇麗にならず、水を使用しなければならない上、必要以上に依頼される。 等々



他市町村では、仮設トイレは収集指定など個別の依頼に対応し、効率性が低いことにより、常設トイレより高い加算料金を設定している所もあるため、収集事業者は長野市においても同様の取扱いを要望

(金額等について)

- 仮設トイレの収集運搬の現状、中核市他・県内市の設定状況から、本市においても加算料金として設定(算定)する時期及び方向性。
- 加算料金とした場合、金額はいくら程度が適しているか。

調査状況: 1,000円～6,000円と幅がある。

- 加算料金の単位基準を検討。(清掃1回・1基・1申請(箇所等))

(徴収業務について)

- 現行のし尿処理システムが、新規加算料金の対応ができない。

※令和7年1月から新システム導入予定

★次回改定(R8)に向けての課題とし、検討(設定方向)として、答申の附帯意見とするか。